



**11月9日は119番の日**

11月9日は、市民の皆さんと消防を結ぶダイヤルナンバー「119」にちなんで、昭和62年から「119番の日」と定められています。

119番にダイヤルする時は、災害等に見舞われて気が動転し、落ち着いて通報ができなくなってしまうことがあります。しかし、慌てて一方的に話すと、正確に伝わらない上、時間もかかります。自分だけで一方的に話そうとせず、落ち着いて、聞かれたことに正確に答えていくのがよい方法です。

ただし、通報している場所にまで煙や火が拡大するなど、自分の身に危険が迫っている場合は直ちに避難しましょう。

～冷静に正確な情報を伝えてください～

何が発生したか	慌てずに落ち着いて、「火災」なのか「救急」なのか「救助」なのかを伝える
発生場所を	住所がわかる時 → 「常陸大宮市〇〇、△△番地の（氏名）です」 住所がわからない時 → 「□□の店の近くです」等目標物を伝える
状況を	・火災の場合【自分の安全を確保して】 「〇〇が燃えています」 何が燃えているのか、また初期消火・避難者・逃げ遅れ者の状況を伝える ・救急の場合【見たままの状況を】 「〇〇の交通事故でけが人が△人います」 「お店で人が突然倒れました。呼びかけに反応がありません」
あなたの名前を	電話をしているあなたの「名前」と「電話番号」を伝える
通報後	消防車・救急車が到着するまで初期消火、容態観察、応急処置をする 車両を現場まで誘導する

通報後、指令室から電話をかけ直すことがありますので、電話を切った後もできるだけ電話を使用しないでください。また、携帯電話は、電源を切らないようお願いいたします。



～通報者への「口頭指導」～

119番を受信する通信指令員は、緊急通報を受理した際、電話口で応急処置を的確に指導できるよう訓練をしています。

呼吸停止で直ちに死に至ると確認できたり、けがで大出血が続いたりしている場合、通報者に心肺蘇生法や窒息の改善、止血法などの応急手当をお願いすることがあります。



▲通信指令室

日常と違う急激な容態の変化にパニックになっているのは誰も同じです。‘あなたの大切な人を救うため’にも、ぜひご協力をお願いいたします。